

部門/会場	リーダー氏名	サブリーダー氏名		
3階 イベントホール E	パストガバナー 大谷 透	地区研修委員	木村 芳樹	大阪南
		地区研修委員	川崎 壽	大阪中央
		地区研修委員	新見 葵	大阪天王寺
議事録作成者	担当SAA 高田 祥宏			

開会：(15時 35分)

発表者：大谷透 パストガバナー 挨拶、基調講演

【講演内容】

「ROTARIAN FELLOWSHIP」

研修リーダーが成すべき事として会長・幹事と力を合わせ例会を楽しく意義のあるものにする。

クラブ奉仕とは、ロータリアンによるロータリアンの為の「人づくり」の道場である。

Rotary Fellowship にはロータリー精神を育む世界の意がある。

リーダーシップとは、まず自分が率先し模範を示すこと。

Rotary Club では、先輩ロータリアンから引き継いだローソクの火を後輩に引き継いでいきたいものである。

発表者：木村芳樹 地区研修委員

【講演内容】

「クラブのロータリー研修について」

ロータリーの研修は ①ロータリー情報を共有する ②ロータリーの考え方を共有すると大きく二つありクラブリーダーなどの特定の人のコピーを育てるのが目的ではない。

ロータリー活動の基本単位は各クラブであり、各クラブは国際ロータリーの枠組みの中でその自主性・独立性を保証され日々の活動を行っている。各クラブそれぞれが自らのクラブに合い相応しい研修の考え方・仕組みなどを立案し実施すべきです。

最終目的としては、クラブすべてのロータリアンが研修リーダーであると言う事です。

テーブルミーティング記録 「クラブ研修の実施について」

【IM1組】

- ① 炉辺会合のようなお酒の入った新人研修を行っている。年2回程度。
- ② 新しい会員との交流を積極的に行う。

【IM2組】

- ① 6クラブ中1クラブが実施。(年3回)
- ② 推薦者が行っている。
- ③ 推薦者が行っている。
- ④ 勉強的であり興味を示さない。
- ⑤ 自己研鑽が重要。

【IM3組】

教育が出来ていないように思う。
研修は必要である。
退会者を防ぐ為の方法を考える。

【IM5組】

新入会員が入会した時にオリエンテーションを行い、ロータリー塾などの研修を実施し(年3回)新旧の垣根を取る。
クラブフォーラムでの全員の議論を新入会員に聞いてもらう。
ファイアースイドミーティング(炉辺会合)を実施し新入会員歓迎会をする。
新入会員は、親睦委員会に所属する事によってクラブ運営に積極的に参加してもらう。

【IM6組】

ロータリー情報委員にて新入会員に教育指導している。
炉辺会合など工夫をして会話を通じて研修をしている。
会長経験者を中心に研修をしその後、懇親会をする。
メンバー数が少なくなると研修もしにくくなる。
入会時に、どのような説明をして入会を勧めたのかが重要ではないか。

【IM7組】

「クラブ研修マニュアル標準モデル」を利用して研修をしている。

パストガバナーや会長経験者に研修をして頂く（年3回くらい）。

懇親会に参加してもらい新入会員とベテラン会員と会話をしてもらう。（退会防止にも繋がる）

新入会員は、必ず友好委員会に所属し親睦を図る。

【IM8組】

世代間の考え方や情報内容にギャップがあるので新人研修は必要である。

活性化委員会を作ったり、炉辺会合を実施したりと工夫を凝らし研修することも大切。

ベテラン会員は、新入会員に対しロータリーの難しいことをあまり強調せず、ロータリーの
どの様な所が良くて長年続けてきたかと言う話をするのが効果的であると思う。

閉会（ 17時 00分）